

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

大阪大学 外国語学部

前期日程

科目

英 語

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

大問5問（英文和訳、読解総合、自由英作文、和文英訳、リスニング）の構成は例年通り。

- ・Ⅰは、昨年とは異なり、2題の英文中のそれぞれの下線部和訳する形式だった。
- ・Ⅱは、設問数は昨年と同じ6題、下線部和訳問題を1問含む点も同様である。下線部の内容説明、理由説明などが出題された。素材文の総語数は昨年とほぼ同じ。
- ・Ⅲは、人として最も恥ずべき行為とそう考える理由を80語程度で書かせる自由英作文。形式としては昨年と同様。
- ・Ⅳの和文英訳は、訳すべき部分の分量は昨年よりもやや増加し、日本語の解釈が難しい問題だった。
- ・Ⅴのリスニングは、読み上げられた英文の分量は昨年と比較して微増した。日本語で答える設問は5つで、例年通り。

〈特記事項・トピックス〉

- ・第Ⅰ問が2題構成となった。
- ・昨年度と同様に、外国語学部以外の学部との共通問題はなく、外国語学部と他学部は全てが異なる問題であった。

〈合格への学習対策〉

- ・英文解釈：英文和訳では、基本的な語彙、構文把握、文脈読解の力をつけることが肝要である。
- ・読解総合：内容や語彙の点で高レベル素材文が出題されることが多いので、こういった問題に日頃から親しみ、文脈上のつながりに注意して読む訓練を積む。
- ・自由英作文：日頃から一定のテーマについて自分の考えをまとめる習慣をつけておく。
- ・和文英訳：硬い文体の文章が出題されることが多い他学部とは異なり、年度により硬軟いずれかの文体の文章が出題される。例文の暗唱によって基本構文・表現を習得するとともに、問題文をよく読み、自分の習得している表現を用いることができないかをよく考えることが大切である。必要ならば、抽象的な箇所を具体的に言い換えたり、原文では表に現れていない内容を補ったりすることによって、よりわかりやすい英文を書く練習もしておきたい。
- ・リスニング：英語の音声に慣れる練習、まとまった情報をキャッチする実戦的練習を行う。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
Ⅰ	記述	(A) 下線部和訳「AI 利用によるエネルギー消費問題」	as ... as ～や so ... that ～といった基本的な構文を用いた文なので、訳すのにそれほど苦労はなかったと思われる。使われている語彙も soar 「急上昇する」がやや難しいが、それ以外は標準的なものであった。	標準
		(B) 下線部和訳「ヴィクトリア朝時代に生じた変化」	第1文は、perhaps ... any previous generation の部分が主部と述部の間に挿入された句であることに留意することと、come to terms with ... 「...と折り合いをつける」を訳出できるかがポイント。第2文は訳出する際にはやや工夫が必要であろう。第3文は depict ... as ～ 「...を～と描写する」に注意する。	
Ⅱ	記述	読解総合「希望の二面性」	設問(1) 内容説明 第2段落第2～4文の内容をまとめればよい。 設問(2) 内容説明 第3段落第3文および第7段落第3・4文の内容をまとめればよい。	標準

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

			設問(3) 内容説明 第4段落の下線部の直後および第9文の内容をまとめればよい。 設問(4) 内容説明 第5段落第5文以降の内容を中心にまとめる。希望はかなわなかったときに最も残酷なものになりえること、また、希望は人々を受動的にすること、この2点をまとめることが必要。 設問(5) 下線部和訳 文構造は比較的把握しやすい。work through ... は「…を克服する」の意。navigate はここでは「…を切り抜ける」の意。collective は「集団の」の意。fuel は動詞で「…に勢いを与える」の意。 設問(6) 内容説明 第8段落第2文および第4文の内容をまとめればよい。	
Ⅲ	記述	自由英作文「人として最も恥ずべき行為」	ある行為を選び、それがどのような点で恥ずべきなのかを説明する。テーマとしては、差別、人権侵害、弱いものいじめ、誤情報の拡散、他者の苦痛に対する無関心、信頼を裏切ること、などが考えられる。	標準
Ⅳ	記述	和文英訳「持続可能な繁栄を目指すためのモデル」	(1)「縦への」は vertical のような逐語訳で通じるとは思いますが、「安定した」や「急速な」のように解釈の方が無難だろう。 (2)「…を一番にする」は「…を最優先する」と考えて place the highest priority on ... のように表すとよい。和文に主語がないので、「私たち(=筆者と仕事仲間)は…を見出す」とも「(一般に)…を見出すべきだ」とも解釈できるだろう。 (3)「小さく、急がず、人間らしく」は、way や fashion などを用いて in a small, unhurried, and human way のように表す方法がある。	やや難
Ⅴ	記述	「蜜蜂が現代の農業と人間の文化に対して及ぼす影響」	昨年度と同様、全て日本語による設問に対して日本語で解答する形式。音声流される前に設問文を読み、「蜜蝋の西洋でのかつての用途」「蜜蜂が人間から得た利益」「蜜蜂の農業に対する経済的貢献」「蜜蜂が人間の文化に対してもたらした意外な影響」「蜜蜂に関する近年のニュース」に関して特に意識を払いながら聴く準備をしておく。そして、音声を聴く際には、求められている情報に関して素早くメモを取りながら要領よくまとめていくとよい。全てを聴き取る必要はないので、聴き取れない部分があっても決して焦らないことが肝要。昨年度においても読み上げられる英文の総語数が微増したが、今年においても、昨年度の520語程度から560語程度に微増した。設問(4)など、どの程度詳細に記述すべきか悩ましい設問があったものの、全体的に解答根拠となる部分自体は比較的容易に判断でき、用いられていた表現の難易度も標準的なものであった。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。